

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築史	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(66時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	金子 博 (実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	建築の過去から現代に至る大きな歴史の流れを理解し、現在から未来を見通す視野を獲得する事を目的とする。現代建築を確立するには、多くの先人、建築家、工匠、技術者らによる多くの格闘があり、その結果としての作品及び諸著作がある。それらを知り学ぶ事により、これからの建築を考える判断の土台となる端緒を自らの内に獲得する事を目的とする。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も適宜取り入れる。また、テキストだけでは分かりにくい部分は、スライドやDVDなどの教材を利用し学生の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 西洋建築史	ギリシャ建築・ローマ建築
第2回		ロマネスク建築・ゴシック建築
第3回		ルネッサンス建築
第4回		バロック建築
第5回		18～19世紀の建築状況
第6回	2. 西洋近代建築史	産業革命と社会の変動・工芸運動
第7回		アールヌーボー
第8回		モデルニスモ
第9回		グラスゴー派
第10回		ウィーン分離派
第11回		シカゴ派
第12回		バウハウス・ドイツ表現派
第13回		デ・ステール
第14回		アムステルダム派
第15回		ロシア構成主義建築・イタリア未来派
第16回	ル・コルビジエとエスプリ・ヌーボー	
第17回	モダニズム建築の成立と伝播	
第18回	北欧モダニズム建築	
第19回	戦後の建築	
第20回	3. 日本建築史	仏教建築
第21回		神社建築
第22回		寝殿造・書院造・茶室・数寄屋
第23回	竪穴住居・民家・町屋	
第24回	4. 日本近代建築史	明治維新と洋風建築
第25回		西洋建築建設と日本人建築家誕生
第26回		伝統建築の再評価
第27回		日本分離派建築会
第28回		日本のモダニズム 1
第29回		日本のモダニズム 2
第30回		日本のモダニズム 3
第31回		日本のモダニズム 4
第32回		ポストモダニズム
第33回		現代日本の建築

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築計画 I	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(66時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	佐藤 広明(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	独立住宅の基本計画ができるようにする。建築計画の基礎知識を修得し、グリッドプランニングの手法を身に付ける。標準的な2階建て住宅が計画できるようにする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も適宜取り入れる。また、テキストだけでは分かりにくい部分は、スライドやDVDなどの教材を利用し学生の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業内容の解説
第2回	建築家とは	職業としての建築家
第3回	物品の寸法	身近な家具と自動車の寸法
第4回		樹木に関する基礎知識
第5回	計画一般	計画の進め方
第6回		動線計画、動線分離の原則
第7回	グリッドプランニング	グリッドプランニングの手法
第8回		グリッドを用いた平面計画1
第9回		グリッドを用いた平面計画2
第10回		グリッドを用いた平面計画3
第11回	各部計画	人体寸法、行動空間、4つの姿勢と各部の高さ
第12回		各室の必要床面積(面積原単位)
第13回		住宅の歩行空間の寸法
第14回		住宅の平面の型
第15回		階段の種類と法規制
第16回		階段の種類と法規制
第17回	独立住宅	配置計画
第18回		外構計画
第19回		平面計画とゾーニング
第20回		動線計画
第21回		各室の計画:玄関
第22回		各室の計画:ホール、廊下
第23回		各室の計画:居間
第24回		各室の計画:食事室
第25回		各室の計画:台所
第26回		各室の計画:便所
第27回		各室の計画:洗面脱衣所
第28回		各室の計画:浴室
第29回		各室の計画:家事室
第30回		各室の計画:主寝室
第31回		各室の計画:子供室
第32回		各室の計画:和室
第33回		各室の計画:その他の室

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築計画Ⅱ	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(66時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	加畑 誠一(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	各用途別に建築計画の基礎知識を修得する。 建築計画の流れや、企画から基本計画、基本設計を行うために必要な、計画上の基礎知識の修得を目標とする。 その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も適宜取り入れる。また、テキストだけでは分かりにくい部分は、スライドやDVDなどの教材を利用し学生の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容	
第1回	ガイダンス	授業内容の解説	
第2回	集合住宅	定義、階数で分類、断面形式	
第3回		アクセス形式で分類	
第4回		共用廊下、共用階段の計画	
第5回		エレベーター(昇降機)の計画	
第6回		エントランス、駐車場の計画	
第7回		住戸内部の計画	
第8回		図書館	定義、種類
第9回	機能、出納システム		
第10回	配置計画		
第11回	平面計画(開架閲覧室～BM車庫)、断面計画		
第12回	美術館		定義、種類、配置計画
第13回			6つの機能、平面構成
第14回			展示部門の計画: 展示機能、展示形式、動線計画
第15回			巡回形式、展示部門以外の平面計画
第16回		断面計画、採光計画(自然採光方式)	
第17回		小学校	歴史、種類、通学区域
第18回	学級運営の方式		
第19回	配置計画		
第20回	ブロックプラン		
第21回	平面計画、断面計画		
第22回	各室の計画		
第23回	オフィスビル		歴史、定義、種類
第24回			敷地の条件と配置計画
第25回			空間構成
第26回			レントブル比
第27回			賃貸形式、規模計画
第28回			コアシステム
第29回			平面計画
第30回			断面計画
第31回			エレベーターの計画
第32回			これからのオフィスビル1
第33回		これからのオフィスビル2	

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	福祉住環境計画	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	齊藤 亮介(実務経験のある一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	建築計画を行う上で、高齢者対応や障害者対応を考慮することが一般化している。そのためには、医療、福祉の分野についても基本的な知識が必要である。建築技術者として必要最低限の医療及び福祉の知識を習得することを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 ～第3回	1. 暮らしやすい生活環境	少子高齢社会と共生社会について 福祉住環境整備の重要性・必要性について 在宅生活の維持とケアサービスについて
第4回 ～第6回	2. 健康と自立をめざして	高齢者の健康と自立について 障害者が生活の不自由を克服する道について
第7回 ～第9回	3. バリアフリーと ユニバーサルデザイン	バリアフリーとユニバーサルデザインについて 生活を支える様々な用具について
第10回 ～第13回	4. 安全・安心・快適な住まい	住まいの整備のための基本技術 段差解消、手すり、建具、スペース、収納、照明、空調、通報システム、維持管理等 生活行為別安全・安心・快適な住まいについて 屋外移動、屋内移動、排泄、入浴、清掃、洗濯、調理、子供に対する配慮等
第14回 ～第16回	5. 安心できる住生活と まちづくり	ライフスタイルの多様化と住まいについて 安心できる住生活について 安心して暮らせるまちづくり
第17回		まとめと演習

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要

## 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築環境工学 I	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(32時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	平山 修二（実務経験を持つ建築設備士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる）				
授業の到達目標	近年の建築では、省エネや省資源といった視点が不可欠になっている。建築を取り巻く基礎的な環境を理解し、建築設計に役立てることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 第2回	建築環境工学とは	建築環境工学の目的と構成を解説。 建築計画との連携。建築設備との違いを解説する。
第3回 第4回 第5回 第6回 第7回	日照・日射環境	地球と太陽の関係について解説。 太陽の運行、太陽定数、太陽位置図などの解説。 日照の確保。日影曲線、日差し曲線を用いた日照条件の検討。 直達日射、天空日射、方位による日射特性を解説。 日射調節の解説。
第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回	光環境	測光量、比視感度、プルキンエ現象、光度、光束など用語の解説。 照度の逆二乗則などの解説。 明視の4条件、グレア、光幕反射、均せい度、モデリング、適正輝度比等の解説。 JISによる照度基準の紹介。 採光計画、全天空照度、昼光率、立体角投射率、頂側窓、ライトシェルフ等の解説。 色温度、人工照明の種類と特徴、人工照明による照明計画、タスクアンビエント照明、照明計算の演習。
第14回 第15回 第16回	色彩環境	有彩色、無彩色、加法混色と減法混色の解説。 各種表色系(マンセル、XYZ、オスワルト、PCCS)の紹介と特徴の解説。 色による感覚(重量感、寒暖感、興奮・沈静感など)の紹介。面積効果、対比、同化、誘目性、補色などの解説。

---

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要

## 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築環境工学Ⅱ	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	平山 修二 (実務経験を持つ建築設備士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる)				
授業の到達目標	建築を取り巻く基礎的な環境を理解し、建築設備を極力使わない省エネルギー(エコ)建築を迫らせ、環境に対する強い意識を持つことを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	空気環境	室内空気環境(換気の目的、許容濃度、必要換気量)について解説。
第2回		自然換気の力学(換気量、風量換気、温度差換気)について解説。
第3回		機械換気の計画(機械換気方式、換気計画)について解説。
第4回	熱環境	熱の流れ(熱貫流、熱伝導、熱伝達、中空層)について解説。
第5回		熱貫流と日射(熱貫流率、日射の取入れ方)について解説。
第6回		建物全体の熱特性(自然室温と温冷房負荷、省エネルギー基準)について解説。
第7回		パッシブソーラーハウスなどのエコハウスの事例紹介。
第8回	湿気環境	湿り空気線図の見方、絶対温度の求め方、混合等について解説。
第9回		湿り空気と露点温度について解説。
第10回		結露(表面結露、内部結露)について解説。
第11回		人体周りの熱収支(温熱環境6要素、環境温度)について解説。
第12回		温熱環境指標(有効温度、新有効温度、PMVなど)について解説。
第13回	都市・地球環境	都市環境(ヒートアイランド現象など)について解説。
第14回		地球環境(気候変動、温暖化など)について解説。
第15回	音環境	音の性質(音の単位、音の感じ方、音の合成)について解説。
第16回		騒音評価と遮音効果(暗騒音、NC曲線、コインシデンス効果など)について解説。
第17回		音響計画(吸音、残響時間、フラッターエコーなど)について解説。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築法規 I	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(66時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	山本 覚(設計事務所を主宰する一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	建築関係法令集を用語の意味を調べる国語辞典のように活用し、身近な建築物が建築基準法の必要最低基準をクリアしていることを理解する。また例題及び演習問題には、一級・二級建築士の過去問題を参考にし、実務の場面でも十分に対応できる指導内容とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	初回ガイダンス	・インデックスの貼り方、法令集の構成
第2回	用語の定義①	・法律用語
第3回	用語の定義②	・建築物、特殊建築物、主要構造部、居室、建築、大規模の修繕、大規模の模様替え 等
第4回	用語の定義③	・延焼のおそれのある部分、耐火建築物、準耐火建築物、敷地、地階、地盤面、避難階 等
第5回	面積及び高さ等①	・面積の算定：敷地面積・建築面積・床面積・延べ面積の算定方法
第6回	面積及び高さ等②	・高さ等の算定：高さ・軒の高さ・階数・地盤面の算定方法
第7回	一般構造規定①	・居室の天井高さ及び床の高さ：法令上必要な最低高さ
第8回	一般構造規定②	・階段：階段に関する用語及び階段の設計方法
第9回	一般構造規定③	・廊下：建築物の用途による廊下の幅
第10回	一般構造規定④	・居室の採光：採光の目的及び有効採光面積の算定方法
第11回	一般構造規定⑤	・居室の換気：換気の種類及び換気方式の種類、石綿等に対する措置：石綿等の使用制限
第12回	敷地と道路①	・道路：道路の種類及び構造基準
第13回	敷地と道路②	・敷地と道路：接道義務の目的及び接道条件
第14回	敷地と道路③	・道路内の建築制限：例外的に、道路内に建てられる建築物等
第15回	敷地と道路④	・私道の変更または廃止の制限
第16回	敷地と道路⑤	・壁面線：壁面線の目的、及び壁面線の成立条件
第17回	用途地域①	・用途地域内の建築制限：用途地域の目的及び用途地域による建築物の建築可否判定方法
第18回	用途地域②	・敷地が異なる用途地域にわたる場合：敷地が異なる用途地域にわたる場合の建築制限
第19回	用途地域③	・卸売り市場等の用途に供する特殊建築物の位置：卸売市場等の特殊施設の建築制限
第20回	建ぺい率①	・建ぺい率の限度：建ぺい率の目的
第21回	建ぺい率②	・建ぺい率による建築面積の算定：建ぺい率を用いた建築面積の算定方法
第22回	建ぺい率③	・建ぺい率の制限緩和：建ぺい率の制限が緩和される条件
第23回	建ぺい率④	・建ぺい率の除外規定：建ぺい率の制限の除外
第24回	容積率①	・容積率の限度：容積率の目的、及び容積率の種類
第25回	容積率②	・容積率による延べ面積の算定：容積率を用いた延べ面積の算定方法
第26回	容積率③	・特定道路の特例：容積率が増える為の一定条件
第27回	容積率④	・住宅地階の特例：住宅の地階が床面積の合計に算入されない為の条件
第28回	容積率⑤	・共同住宅の共用廊下・階段の特例：床面積の合計に算入されない為の条件
第29回	容積率⑥	・自動車車庫等の特例：自動車車庫が、床面積の合計に算入されない為の条件
第30回	耐火建築物、準耐火建築物①	・耐火建築物又は準耐火建築物としなければならない特殊建築物①
第31回	耐火建築物、準耐火建築物②	・耐火建築物又は準耐火建築物としなければならない特殊建築物②
第32回	耐火建築物、準耐火建築物③	・耐火建築物又は準耐火建築物としなければならない特殊建築物③
第33回	まとめ	・全体のおさらい

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要

## 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築法規Ⅱ	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(66時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	武井 克憲(実務経験を持つ学会設備士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	建築法規Ⅱでは建築法規Ⅰの続編として、実務レベルに必要な範囲の建築基準法をマスターする。また建築物の実施設計等に必要な建築基準法以外の法律、例えば建築士法・住宅品質確保法等の関係法令も理解する。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とする。建築関連法令集の法文を解説し、建築士試験を意識した演習課題を行うことにより理解を深める。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 高さ制限①	絶対高さ:用途地域等により、建築物の高さが制限される事を解説
第2回	高さ制限②	道路斜線:前面道路の幅員等により、建築物の高さが制限される事を解説
第3回	高さ制限③	隣地斜線:隣地境界線からの離隔距離等による高さ制限の解説
第4回	高さ制限④	北側斜線:北側隣地境界線・北側道路からの離隔距離等による高さ制限の解説
第5回	高さ制限⑤	斜線制限の緩和:各種の斜線制限が緩和される条件を解説
第6回	高さ制限⑥	日影規制:日影による中高層建築物の高さ制限を解説
第7回	2. 避難施設等①	廊下:廊下幅員の特例について解説
第8回	避難施設等②	出入り口:客席からの出口の戸、及び屋外への出口の戸について解説
第9回	避難施設等③	避難階段:2以上の直通階段が必要な建築物の条件、及び避難階段の種類等について解説
第10回	避難施設等④	排煙設備について、その設置条件及び構造等について解説
第11回	避難施設等⑤	非常用照明・非常用進入口・非常用EVIについて、その設置条件及び構造等について解説
第12回	3. 構造計算及び構造強度①	構造計算:建築設計において、構造計算が必要か不要かの判定方法を解説
第13回	構造計算及び構造強度②	木造:地震、台風に安全な木造建築物を造る為、柱の小径・必要軸組長さ等を解説
第14回	構造計算及び構造強度③	補強コンクリートブロック造:地震で倒壊しない塀の構造等を解説
第15回	構造計算及び構造強度④	鉄骨造:鉄骨造の材料・有効細長比・接合・高力ボルト等を解説
第16回	構造計算及び構造強度⑤	鉄筋コンクリート造:柱・床版・はり・耐力壁の構造等を解説
第17回	4. 防火規定①	防火地域・準防火地域:両地域内の建築構造・外壁・防火戸・看板等に関する建築制限を解説
第18回	防火規定②	準耐火建築物の木造3階建共同住宅:本来は耐火建築物にすべき建築物が、例外として、一定条件を満足すれば準耐火建築物で建てられる事を解説
第19回	防火規定③	内装制限を受ける建築物:内装制限を受ける建築物の条件について解説
第20回	防火規定④	内装制限を受けた建築物の内装仕上材料等について解説
第21回	防火規定⑤	防火区画:面積区画・高層区画・堅穴区画・異種用途区画の条件、及びその構造等について解説
第22回	防火規定⑥	防火区画:面積区画・高層区画・堅穴区画・異種用途区画の条件、及びその構造等について解説
第23回	防火規定⑦	防火壁・界壁・間仕切壁・隔壁:4種類の壁についてその適用条件を解説
第24回	5. 建築確認申請及び建築手続き①	建築物の設計において、建築確認申請が必要か不要かの判定方法を解説
第25回	建築確認申請及び建築手続き②	建築物の設計において、建築確認申請が必要か不要かの判定方法を解説
第26回	建築確認申請及び建築手続き③	中間検査・完了検査の必要な時期、及びその申請方法について解説
第27回	建築確認申請及び建築手続き④	定期報告・工事届、除却届等:各種届出の時期及び届出方法について解説
第28回	建築確認申請及び建築手続き⑤	演習問題による実習を通して、各種届出について理解
第29回		振り返り・確認テスト・・・これまでの振り返りを行い、基本的事項の再確認を行う
第30回	6. その他関連法令①	建築士法:1級・2級・木造建築士が設計監理できる建築物の条件について解説
第31回	その他関連法令②	建築士法:建築士の業務・事務所の規定等について解説
第32回	その他関連法令③	住宅品質確保法:住宅品質確保法の用語の定義、及び新築住宅の瑕疵担保責任等について解説
第33回	7. まとめ	全体の振り返り及び確認

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築空調・衛生設備	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(66時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	本間 修市（実務経験を持つ設備設計一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	建築設備のうち、給排水衛生設備と空気調和設備の基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	建築設備概論  給排水衛生設備  給水設備  給湯設備  排水通気設備  衛生器具設備  消火設備   空気調和設備    換気設備	建築設備とは、建築設備の役割について解説。
第2回		建築設備の種類と構成、および建築計画と設備計画の解説。
第3回		地球環境問題と建築設備、省エネルギー、維持管理などの解説
第4回		給排水衛生設備の役割と目的および構成について解説。
第5回		水の種類、化学的特性、物理的特性について解説。
第6回		給水設備の目的、水道施設と水道の種類について解説。
第7回		水道水の水質基準の紹介、給水方式の解説。自宅の給水量を10日間実測し考察。
第8回		使用水量と給水器具の必要水圧、受水槽・高置水槽の構造について解説。
第9回		給水管の管径計算、揚水ポンプ能力の算出計算の実習。
第10回		湯の性質、給湯温度と使用温度について解説。
第11回		給湯方式および給湯配管注意事項について解説。
第12回		排水通気設備の目的、排水の種類と排水方式について解説。
第13回		トラップ、通気管種類、排水管名称について解説。
第14回		排水槽の構造、間接排水について解説。
第15回		雨水排水管の口径計算について実習。
第16回		衛生器具の概要、洋風大便器、洗面器ほかの種類について解説。
第17回		衛生器具の設置計画、必要個数について解説。
第18回		燃焼の3要素、消火の方法および消火設備の基本事項について解説。
第19回		消火器、消火栓、スプリンクラー、連結送水管、連結散水設備について解説。
第20回	空気調和設備の目的と構成について解説。	
第21回	室内環境基準7項目の内容、温熱感覚を解説。	
第22回	空気線図の読み取り方を解説し、加湿量の算定を実習。	
第23回	顕熱と潜熱の違いから顕熱変化、潜熱変化を解説。	
第24回	空調負荷計算の概要を解説。	
第25回	空調方式の種類と特徴を解説。	
第26回	冷房暖房時の空気線図上の動きを解説。	
第27回	中央式空気調和機のシステム全体の解説。	
第28回	熱源装置(ボイラー、冷凍機)、熱搬送機器(送風機、ポンプ)、空調機、熱交換器などの種類および特徴を解説。	
第29回	ダクトのサイズ算定方法の概要を解説	
第30回	換気設備の目的および第1種から第3種換気方式を解説。	
第31回	換気量算定の手法を解説し、換気量を計算－1。	
第32回	換気量算定の手法を解説し、換気量を計算－2。	
第33回	換気量算定の手法を解説し、換気量を計算－3。	

---

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要

## 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築電気設備	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	本間 修市（実務経験を持つ設備設計一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	建築電気設備全般、照明コンセント設備を中心に受変電設備や動力設備などを理解して、基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	電気設備とは	電気設備の役割、構成、関連法規の解説。
第3回		電気の基礎知識。周波数、電流、電圧、電力の解説。
第4回	受変電・幹線設備	受変電設備解説。契約電力での受変電設備の要、不要。受電・配電方式解説。
第5回		幹線設備の解説。遮断器の種類、幹線の配線方式、配線方法の注意点等。
第6回	動力設備	動力設備の解説。負荷密度を用いて、設備容量の推定方法を解説。
第7回	自家発電・蓄電池設備	自家発電設備の解説。発電設備の必要性、コ・ジェネレーションシステムの紹介。
第8回		発電方式種類(ガスタービン・ディーゼル)の紹介など。蓄電池設備・
第9回		無停電電源装置(UPS)の解説。自家発電設備との起動時間の比較。
第10回	照明・コンセント設備	照明の用語(光束、光度、照度…)の解説。照明器具の種類と特徴の解説。照明
第11回		方式の紹介。光束法による照度計算。建築化照明の種類と特徴の解説。
第12回		コンセントの種類と部屋の大きさによる設置個数。
第13回	情報・通信設備	電話設備(PBX・LAN設備)などの解説。
第14回		テレビ共同受信設備・防犯設備などの解説。
第15回	防災設備	自動火災報知設備および非常灯の解説。
第16回	防災設備	避雷設備と航空障害灯設備の解説。
第17回	学習のまとめ、復習	まとめ及び復習など。

---

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築構造力学Ⅰ	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(66時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	田川 典幸 佐藤 広明(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	建築物を設計するにあたって、「構造」に関する知識が大切であることを認識してもらう。そして、「構造」の基礎となっているのが「構造力学」であることを理解して、構造力学の基礎的な知識を習得してもらう。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も取り入れ、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業の位置付け、評価方法、「建築構造設計」を学ぶにあたって
第2回	構造物に働く力	いろいろな建築物、建築物に働く力、力学的に見た建築物
第3回	力の基本1	力の3要素、力の図示、力の単位、力の符号
第4回	力の基本2	力のモーメント、偶力のモーメント
第5回	力の基本3	力の合成と分解(1点に働く力の合成と分解)
第6回	力の基本4	力の合成と分解(バリニオンの定理)平行な力の合成
第7回	力の基本5	力の合成と分解(バリニオンの定理)平行な力の分解
第8回	力のつり合い	力のつり合い条件式
第9回	構造物と荷重および外力	各種の構造物、支点と接点、荷重および外力の種類
第10回	反力1	各支点到生じる反力の種類、反力の求め方
第11回	反力2	静定構造物(片持梁の集中荷重について)
第12回	反力3	静定構造物(片持梁の等分布荷重について)
第13回	反力4	静定構造物(単純梁の集中荷重について)
第14回	反力5	静定構造物(単純梁の等分布荷重について)
第15回	反力6	静定構造物(ラーメンフレームの集中荷重について)
第16回	反力7	静定構造物(ラーメンフレームの等分布荷重について)
第17回	構造物に生じる力	力の種類、力の求め方と表し方
第18回	応力解析1～	静定構造物(片持梁の集中荷重について)解説
第19回		静定構造物(片持梁の集中荷重について)演習①
第20回		静定構造物(片持梁の集中荷重について)演習②
第21回		静定構造物(片持梁の集中荷重について)演習③
第22回	応力解析2～	静定構造物(片持梁の等分布荷重について)解説
第23回		静定構造物(片持梁の等分布荷重について)演習①
第24回		静定構造物(片持梁の等分布荷重について)演習②
第25回		静定構造物(片持梁の等分布荷重について)演習③
第26回	応力解析3～	静定構造物(単純梁の集中荷重について)解説
第27回		静定構造物(単純梁の集中荷重について)演習①
第28回		静定構造物(単純梁の集中荷重について)演習②
第29回		静定構造物(単純梁の集中荷重について)演習③
第30回	応力解析4～	静定構造物(単純梁の等分布荷重について)解説
第31回		静定構造物(単純梁の等分布荷重について)演習①
第32回		静定構造物(単純梁の等分布荷重について)演習②
第33回		静定構造物(単純梁の等分布荷重について)演習③

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要

## 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築構造力学Ⅱ	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(66時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	田川 典幸(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	建築物を設計するにあたって、フレーム及び部材の断面にどのように力が作用し、その時の力の大きさと強さがフレーム及び断面に与える影響、安全性について学ぶ。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も取り入れ、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	建築構造力学Ⅰの復習1	片持梁の応力解析
第2回	建築構造力学Ⅰの復習2	単純梁の応力解析
第3回	応力解析1～	静定構造物(片持梁系ラーメンの集中荷重について)解説
第4回		静定構造物(片持梁系ラーメンの集中荷重について)演習①
第5回		静定構造物(片持梁系ラーメンの集中荷重について)演習②
第6回	応力解析2～	静定構造物(片持梁系ラーメンの等分布荷重について)解説
第7回		静定構造物(片持梁系ラーメンの等分布荷重について)演習①
第8回		静定構造物(片持梁系ラーメンの等分布荷重について)演習②
第9回	応力解析3～	静定構造物(単純梁系ラーメンの集中荷重について)解説
第10回		静定構造物(単純梁系ラーメンの集中荷重について)演習①
第11回		静定構造物(単純梁系ラーメンの集中荷重について)演習②
第12回	応力解析4～	静定構造物(単純梁系ラーメンの等分布荷重について)解説
第13回		静定構造物(単純梁系ラーメンの等分布荷重について)演習①
第14回		静定構造物(単純梁系ラーメンの等分布荷重について)演習②
第15回	静定トラス1	静定トラスとは、静定トラスの各部材に生じる力
第16回	静定トラス2	接点法による応力解析、解説と演習
第17回	静定トラス3～	切断法による応力解析、解説と演習①
第18回		切断法による応力解析、演習②
第19回		切断法による応力解析、演習③
第20回	断面の性質1	断面一次モーメントと図心、解説と演習
第21回	断面の性質2～	断面二次モーメント、解説と演習①
第22回		断面二次モーメント、演習②
第23回	断面の性質4	断面係数、断面二次半径、断面の主軸
第24回	構造材料の力学的性質	応力度について(垂直応力度、せん断応力度、曲げ応力度)解説
第25回	部材に生じる応力度1	圧縮力を生じる部材、長柱公式(オイラー式)、解説と演習①
第26回	部材に生じる応力度2	せん断応力度、解説と演習
第27回	部材に生じる応力度3	最大せん断応力度、演習
第28回	部材に生じる応力度4	曲げ応力度、解説と演習
第29回	部材に生じる応力度5～	最大曲げ応力度、演習①
第30回		最大曲げ応力度、演習②
第31回	不静定構造物1～	たわみについて
第32回		たわみ角について
第33回		不静定ラーメンについて

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築一般構造 I	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(66時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	山田 三郎(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	建築構造全般、木構造、鉄筋エンクリート構造を中心に、建築物の骨組みや仕上げの構成を理解して、基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	建築工法の変遷	建築工法の変遷
第3回	建築構造の分類	建築構造の分類1
第4回	建築構造の分類	建築構造の分類2
第5回	建築構造の分類	建築構造の分類3
第6回	木構造1	木構造とは
第7回	木構造2	木構造の特徴、構造形式
第8回	木構造3	木材①
第9回	木構造4	木材②
第10回	木構造5	軸組み工法①
第11回	木構造6	軸組み工法②
第12回	木構造7	軸組み工法③
第13回	木構造8	軸組み工法④
第14回	木構造9	枠組壁工法
第15回	木構造10	構造用大断面集成材構造
第16回	学習のまとめ、復習	まとめ及び復習など
第17回	鉄筋コンクリート構造1	鉄筋コンクリート構造の原理と特徴
第18回	鉄筋コンクリート構造2	構造形式について
第19回	鉄筋コンクリート構造3	鉄筋について
第20回	鉄筋コンクリート構造4	セメント、コンクリート①
第21回	鉄筋コンクリート構造5	セメント、コンクリート②
第22回	鉄筋コンクリート構造6	配筋①
第23回	鉄筋コンクリート構造7	配筋②
第24回	鉄筋コンクリート構造8	配筋③
第25回	鉄筋コンクリート構造9	配筋④
第26回	鉄筋コンクリート構造10	基礎①
第27回	鉄筋コンクリート構造11	基礎②
第28回	鉄筋コンクリート構造12	主体構造-構造計画
第29回	鉄筋コンクリート構造13	主体構造-柱
第30回	鉄筋コンクリート構造14	主体構造-梁
第31回	鉄筋コンクリート構造15	主体構造-床
第32回	鉄筋コンクリート構造16	主体構造-壁、階段
第33回	学習のまとめ、復習	まとめ及び復習など

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築一般構造Ⅱ	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(32時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	山田 三郎(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	鉄骨構造の構造形式、鋼材の種類、接合、骨組を中心に鉄骨構造について理解して、基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	鉄骨構造1	鉄骨構造の特徴・構造形式
第3回	鉄骨構造2	鋼材①
第4回	鉄骨構造3	鋼材②
第5回	鉄骨構造4	接合-ボルト接合①
第6回	鉄骨構造5	接合-ボルト接合②
第7回	鉄骨構造6	接合-溶接接合①
第8回	鉄骨構造7	接合-溶接接合②
第9回	鉄骨構造8	骨組-部材
第10回	鉄骨構造9	骨組-梁
第11回	鉄骨構造10	骨組-柱
第12回	鉄骨構造11	骨組-筋交
第13回	鉄骨構造12	骨組-柱脚・基礎
第14回	鉄骨構造13	骨組-床組・階段
第15回	鉄骨構造14	その他の鉄骨構造
第16回	学習のまとめ、復習	まとめ及び復習など

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築一般構造Ⅱ	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(32時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	山田 三郎(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	鉄骨構造の構造形式、鋼材の種類、接合、骨組を中心に鉄骨構造について理解して、基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	鉄骨構造1	鉄骨構造の特徴・構造形式
第3回	鉄骨構造2	鋼材①
第4回	鉄骨構造3	鋼材②
第5回	鉄骨構造4	接合-ボルト接合①
第6回	鉄骨構造5	接合-ボルト接合②
第7回	鉄骨構造6	接合-溶接接合①
第8回	鉄骨構造7	接合-溶接接合②
第9回	鉄骨構造8	骨組-部材
第10回	鉄骨構造9	骨組-梁
第11回	鉄骨構造10	骨組-柱
第12回	鉄骨構造11	骨組-筋交
第13回	鉄骨構造12	骨組-柱脚・基礎
第14回	鉄骨構造13	骨組-床組・階段
第15回	鉄骨構造14	その他の鉄骨構造
第16回	学習のまとめ、復習	まとめ及び復習など

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築材料	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	山田 三郎(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	建築を学ぶ上において、建築材料は基礎となる。建物に使用される各種材料の製造方法や、基本的な性質を理解し、建築物への用い方や工法上の注意事項などを学習する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	建築材料の概要1	建築材料の歴史
第3回	建築材料の概要2	建築材料と規格
第4回	建築材料の概要3	建築材料と環境
第5回	建築材料の概要4	建築材料の分類
第6回	建築材料の概要5	建築材料と性能
第7回	防水材料1	防水の種類
第8回	防水材料2	アスファルト防水①
第9回	防水材料3	アスファルト防水②
第10回	防水材料4	アスファルト防水の施工
第11回	防水材料5	その他の防水
第12回	ガラス1	ガラスの歴史・種類
第13回	ガラス2	板ガラスの製法①
第14回	ガラス3	板ガラスの製法②
第15回	ガラス4	板ガラスの種類
第16回	その他の材料	その他の材料
第17回	学習のまとめ、復習	まとめ及び復習など

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・後期19週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築施工	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(66時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	齊藤 亮介(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	建築施工に関わる基礎を習得する。建築施工の流れや、契約から鉄筋コンクリートの躯体ができるまでを中心に、施工方法等の基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVD、材料サンプルなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	契約	請負とは、請負契約図書
第3回	施工計画1	施工計画とは、施工計画書
第4回	施工計画2	工程表
第5回	管理計画1	管理業務、材料管理
第6回	管理計画2	安全管理、申請業務、建設廃棄物
第7回	工事準備	工事準備
第8回	地盤調査	地盤調査
第9回	仮設工事1	共通仮設
第10回	仮設工事2	直接仮設
第11回	地盤・土工事・基礎1	工事順序、根切、排水
第12回	地盤・土工事・基礎2	山留、地業
第13回	地盤・土工事・基礎3	杭工事
第14回	鉄筋コンクリート	工事の流れ、鉄筋コンクリートとは
第15回	鉄筋工事	鉄筋の種類、加工
第16回	学習のまとめ、復習	まとめ及び復習など
第17回	鉄筋工事1	組立
第18回	鉄筋工事2	定着
第19回	鉄筋工事3	継手
第20回	型枠工事1	型枠とは
第21回	型枠工事2	型枠の材料
第22回	型枠工事3	型枠の加工・組立
第23回	型枠工事4	型枠の解体
第24回	コンクリート工事1	コンクリートの材料①
第25回	コンクリート工事2	コンクリートの調合と強度
第26回	コンクリート工事3	レディミクストコンクリート
第27回	コンクリート工事4	コンクリートの運搬
第28回	コンクリート工事5	コンクリートの打込み①
第29回	コンクリート工事6	コンクリートの打込み②
第30回	コンクリート工事7	コンクリートの養生
第31回	コンクリート工事8	コンクリートの品質管理
第32回	コンクリート工事9	各種コンクリート
第33回	学習のまとめ、復習	まとめ及び復習など

---

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築積算	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(32時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	齊藤 亮介(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	建築物を作るという過程の中で、積算という作業が占める役割を理解させ、鉄筋コンクリート造積算の手順と方法について理解出来るようにする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式とするが、具体的な積算の材料拾い出しや集計方法を習得するため、資料を配布し、課題の演習を中心に行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス・概要	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	積算(数量の計算)1	土工の数量①
第3回	積算(数量の計算)2	土工の数量②
第4回	積算(数量の計算)3	地業の数量
第5回	積算(数量の計算)4	基礎型枠の数量①
第6回	積算(数量の計算)5	基礎型枠の数量②
第7回	積算(数量の計算)6	基礎コンクリートの数量
第8回	積算(数量の計算)7	柱・梁型枠の数量①
第9回	積算(数量の計算)8	柱・梁型枠の数量②
第10回	積算(数量の計算)9	柱・梁コンクリートの数量
第11回	積算(数量の計算)10	壁・スラブ型枠の数量①
第12回	積算(数量の計算)11	壁・スラブ型枠の数量②
第13回	積算(数量の計算)12	壁・スラブコンクリートの数量
第14回	積算(数量の計算)13	鉄筋の数量①
第15回	積算(数量の計算)14	鉄筋の数量②
第16回	学習のまとめ、復習	まとめ及び復習など

---

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築計画演習	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	1単位(32時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	加畑 誠一（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	建築計画Ⅱでの知識を基礎にして、各用途の建物の建築計画ができるようにする。建物の配置計画、平面計画、立面計画等の基本計画を、演習を通してできるようにする事が目標である。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	演習形式を基本とする。演習課題の完成見本を示しながら、作業手順を解説する。一通りできれば、建築設計Ⅱの課題がスムーズに計画できるようになる。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	課題内容の解説
第2回	集合住宅	配置計画、構造計画
第3回		共用部分の作図
第4回		住戸タイプ、住戸内部のエスキス
第5回		住戸平面の作図
第6回		図書館
第7回	美術館	出納システム
第8回		平面のエスキス
第9回		平面図の作図
第10回		立面図の作図
第11回		ゾーニング、ブロックプラン
第12回		巡回形式のエスキス
第13回		平面のエスキス
第14回		平面図の作図
第15回		立面図の作図
第16回	まとめ	学習のまとめ、講評

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築基礎製図	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	1単位(32時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	宮野 人至(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	建築を学ぶ上で、製図経験・知識が無い初心者でも理解し、作図が出来るように製図の基礎を勉強する。本校オリジナルの基礎製図用の演習課題に基づいて学ぶ。製図用具の正しい使い方も併せて指導する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。更には、基本的な製図ルールを厳守しつつ、丁寧に正確な作業を行い、期限内に各課題を完成させることも重視している。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	初回ガイダンス	・授業の位置付け、評価方法、「建築基礎製図」を学ぶにあたって
第2回	製図用具の説明	・解説製図用具の説明
第3回	製図の基礎知識	・線の種類、描き方
第4回	演習課題1	・実線の練習①
第5回	演習課題2	・垂直線・斜線の練習①
第6回	演習課題3	・浮かし定規の練習①
第7回	演習課題3	・浮かし定規の練習②
第8回	演習課題4	・一点鎖線・二点鎖線の練習①
第9回	演習課題5	・円・円弧の練習①
第10回	演習課題5	・円・円弧の練習②
第11回	演習課題6	・数字・ローマ字・記号の練習①
第12回	演習課題6	・数字・ローマ字・記号の練習②
第13回	演習課題7	・和文の練習①
第14回	演習課題8	・線のつなぎ方の練習①
第15回	演習課題8	・線のつなぎ方の練習②
第16回	演習課題9	・円の36等分の練習

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築製図 I	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(64時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	伊東 秀紀(実務経験を持つ一級建築施工管理技士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。) 宮本 青佳(実務経験を持つ二級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	木構造の基本や特徴を、実際的な図面を模写することによって、より深く理解する。同時に図面を作成する時の決まりや記入すべき事項、さらに手書き図面の表現方法などを習得する。各種図面の読み方、図面相互関係の参照の方法、各部名称、納まり、各部詳細についても理解する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする。木造用当校オリジナル教材を使用し、木構造の基本や特徴を、実際的な図面を模写することによって、より深く理解する。これを理解し実感してもらうためには、期限内に作品を完成させることを最優先している。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業の位置付け、評価方法
第2回	木造図面1	図面の名称・内容、図面の読み方、図面を描く上での注意点
第3回	木造図面2～	配置1階平面図、配置図講義①
第4回		配置1階平面図、配置図講義②+作図演習①
第5回		配置1階平面図、配置図作図演習①
第6回	木造図面3～	配置1階平面図、1階平面図講義①
第7回		配置1階平面図、1階平面図講義②+作図演習①
第8回		配置1階平面図、1階平面図作図演習②
第9回		配置1階平面図、1階平面図作図演習③
第10回		配置1階平面図、1階平面図作図演習④
第11回		配置1階平面図、1階平面図作図演習⑤
第12回	木造図面4～	2階平面図、2階平面図講義①
第13回		2階平面図、2階平面図講義②+作図演習①
第14回		2階平面図、2階平面図作図演習②
第15回		2階平面図、2階平面図作図演習③
第16回		2階平面図、2階平面図作図演習④
第17回	木造図面5～	立面図、立面図講義①
第18回		立面図、立面図講義②+作図演習①
第19回		立面図、立面図作図演習②
第20回		立面図、立面図作図演習③
第21回		立面図、立面図作図演習④
第22回	木造図面6～	断面図、断面図講義①
第23回		断面図、断面図講義②+作図演習①
第24回		断面図、断面図作図演習②
第25回		断面図、断面図作図演習③
第26回		断面図、断面図作図演習④
第27回	木造図面7～	矩計図、矩計図講義①
第28回		矩計図、矩計図講義②+作図演習①
第29回		矩計図、矩計図作図演習②
第30回		矩計図、矩計図作図演習③
第31回		矩計図、矩計図作図演習④
第32回		矩計図、矩計図作図演習⑤

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築製図Ⅱ	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	伊東 秀紀(実務経験を持つ一級建築施工管理技士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。) 宮本 青佳(実務経験を持つ二級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	鉄筋コンクリート構造の基本や特徴を、実際の図面を模写することによって、より深く理解する。同時に図面を作成する時の決まりや記入すべき事項、さらに手書き図面の表現方法などを習得する。各種図面の読み方、図面相互関係の参照の方法、各部名称、納まり、各部詳細についても理解する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする。鉄筋コンクリート造用当校オリジナル教材を使用し、鉄筋コンクリート構造の基本や特徴を、実際の図面を模写することによって、より深く理解する。これを理解し実感してもらうためには、期限内に作品を完成させることを最優先している。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	鉄筋コンクリート造図面1	図面の名称・内容、図面の読み方、図面を描く上での注意点
第2回	鉄筋コンクリート造図面2～	配置1階平面図、配置図講義①
第3回		配置1階平面図、配置図講義②+作図演習①
第4回		配置1階平面図、配置図作図演習①
第5回	鉄筋コンクリート造図面3～	配置1階平面図、1階平面図講義①
第6回		配置1階平面図、1階平面図講義②+作図演習①
第7回		配置1階平面図、1階平面図作図演習②
第8回		配置1階平面図、1階平面図作図演習③
第9回		配置1階平面図、1階平面図作図演習④
第10回		配置1階平面図、1階平面図作図演習⑤
第11回		配置1階平面図、1階平面図作図演習⑥
第12回	鉄筋コンクリート造図面4～	立面図、立面図講義①
第13回		立面図、立面図講義②+作図演習①
第14回		立面図、立面図作図演習②
第15回		立面図、立面図作図演習③
第16回		立面図、立面図作図演習④
第17回		立面図、立面図作図演習⑤
第18回		立面図、立面図作図演習⑥
第19回	鉄筋コンクリート造図面5～	断面図、断面図講義①
第20回		断面図、断面図講義②+作図演習①
第21回		断面図、断面図作図演習②
第22回		断面図、断面図作図演習③
第23回		断面図、断面図作図演習④
第24回		断面図、断面図作図演習⑤
第25回		断面図、断面図作図演習⑥
第26回	鉄筋コンクリート造図面6～	矩計図、矩計図講義①
第27回		矩計図、矩計図講義②+作図演習①
第28回		矩計図、矩計図作図演習②
第29回		矩計図、矩計図作図演習③
第30回		矩計図、矩計図作図演習④
第31回		矩計図、矩計図作図演習⑤
第32回		矩計図、矩計図作図演習⑥
第33回		矩計図、矩計図作図演習⑦
第34回		矩計図、矩計図作図演習⑧

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築設計 I	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	9単位(280時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	鈴木 健司(設計事務所を主宰する一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	「建築設計 I」では、基礎を確立し設計の原点である、“自分で考え”“物を造り出す”方法を身に付けることを目的とする。具体的には、線の引き方から透視図の原理、模型の製作方法、図面の読み方・描き方、そしてゼロから現実の敷地に自分のコンセプトを基に建築物として完成させ、プレゼンテーションまでが出来ることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。作品は全て個人またはグループによる創作である。コンセプトを現実のカタチにまで造り上げることは、現在学んでいる多くの他の授業の統合である。これを理解し実感してもらうためには、期限内に作品を完成させることを最優先している。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものである。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～	1. 初回ガイダンス	・授業の位置付け、評価方法、「建築設計」を学ぶにあたって
第4回～	2. 線の練習	・フリーハンドで線を描く練習をする:テーマを決め、様々な線を用いて表現する
第10回～	3. 模型の作り方	・スタディ模型を基に第三者(施主)に対して プレゼンテーションが出来る美しい模型を作る
第13回～	4. プレゼン用住宅模型	・ステレンボードによる、基本的なプレゼン用住宅模型の作成 ・模型作成テクニックや道具の紹介(インテリア、外構計画等)
第22回～	5. マンションの設計 及びインテリア	・躯体のみを与えられ、その内部に住宅の設計を行う ・主要な室、水廻り空間、外部空間の設計:機能と必要寸法の学習 ・家具の寸法と配置について ・図面表現、パースの作成について
第43回～	6. 都市の住処 ～オープンスペース を持つ併用住宅～	・要項説明、敷地調査 ・与えられた敷地と条件での理想的な小住宅の設計 ・コンセプトを簡単明瞭に作り、具体的なカタチへ ・エスキスは平面、断面、立面も同時に進める ・誰にも分かりやすく、美しいプレゼンテーションの学習 ・模型撮影とライティング・レイアウト・スケジュール管理
第70回～		・クラス講評会 ・合同講評会:プレゼン能力の向上、他人の作品研究、モチベーションの維持 などを目的とし、課題の区切り・まとめとして行なう
第75回		
第76回～	7. 集合住宅の歴史	・集合住宅の歴史について学ぶ ・その変遷と生活スタイルの変化について ・レポート作成とプレゼンテーション
第87回		
第88回～	8. 進級制作	・要項説明、敷地調査
第91回～	「コモンスペースを持つ 集住住宅」の設計	・コンセプト:要求や条件からテーマやイメージを決める ・ダイアグラム:計画の要点や特徴を文章や図を用いて簡潔に表現する ・エスキス①:機能やデザインに基づくゾーニングや動線をまとめる ・エスキス②:ボリュームや外部施設、必要諸室、面積、構造、設備の検討 :スタディ模型による立体的な観点からの検討
第100回～		
第109回～		・プランニング①:徐々に抽象的なコンセプトを具体的なカタチにしてゆく ・プランニング②:エスキス検討を繰り返しつつ、各図面のスケッチを描く ・プランニング③:配置図・平面図・断面図等の作成と、各種検討作業を継続する ・プランニング④:必要図面表現を明確にし、実際の作図を実施する
第127回～		・パース・模型①:計画意図を明確に伝えるための内外イメージの具現化 ・パース・模型②:スケッチ、パース、模型等による表現 ・プレゼンテーション:誰にも分かりやすく、美しいプレゼンテーションの学習
第135回～		・クラス講評会:他の人の考えや表現を見て、自らの計画にフィードバックする
第138回～		・合同講評会:プレゼンテーションや他の人の作品研究を通して、今後の制作へ 向けたモチベーションや知識、技術の向上を目指す
第140回		

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週



# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	設計演習	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	1単位(34時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	加畑 誠一（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	二級建築士の実技課題に合格できる、設計力と製図力を身に付けさせることが目標である。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	演習形式を基本とする。実際の完成見本を示しながら、作業手順を解説する。一通りできれば、二級建築士の実技課題が、スムーズに作成できる実力を備えることができる。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	構造計画	木造在来工法の特徴と図面表現
第2回		RC造の特徴と図面表現
第3回		鉄骨造の特徴と図面表現
第4回	配置計画	建物配置の原則、アプローチ動線の考え方
第5回		駐車スペースの取り方
第6回	平面計画	与条件の読み取り、ゾーニングの仕方
第7回		エスキスの進め方
第8回	配置図	配置図の描き方及び外構計画
第9回	平面図	平面図の描き方1
第10回		平面図の描き方2
第11回	断面図	断面図の描き方1
第12回		断面図の描き方2
第13回	立面図	立面図の描き方及び屋根の掛け方、開口部の開け方、表現方法
第14回	矩計	建物の構造及び各部の納まり
第15回		矩計の基礎知識
第16回	まとめ	矩計の描き方
第17回		学習のまとめ、講評

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築総合設備演習	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(66時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	本間 修市 (実務経験を持つ設備設計一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	意匠設計とも関連する照明設計を、シミュレーションソフトを利用し理解する。電気設備、給排水衛生設備、空調設備の設計図を作図し、各設備の特徴をとらえ、実務に役立つ技量の取得を目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	人工照明シミュレーションソフトを利用し、昨年度実施した照明計算を実感する。さらに、建築設備(電気・給排水衛生・空調)の設計図に触れ、見本を基に各設備の代表的な設計図の内容を理解して作図する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	人工照明シミュレーション	人工照明シミュレーションソフトのインストール、使用方法について解説。
第2回		モデル平面図から立体化方法の解説－1。
第3回		モデル平面図から立体化方法の解説－2。
第4回		モデル平面図から立体化方法の解説－3。
第5回		モデル平面図から立体化方法の解説－4。
第6回		モデル平面図から立体化方法の解説－5。
第7回		組入れる照明器具の選定、照明器具配置方法の解説。
第8回		照度計算の操作方法の解説、および光束法による照明計算との比較。
第9回		別モデルでの照明シミュレーション実習－1。
第10回		別モデルでの照明シミュレーション実習－2。
第11回	電気設備設計図	別モデルでの照明シミュレーション実習－3。
第12回		別モデルでの照明シミュレーション実習－4。
第13回		電気設備に必要な記号を解説。
第14回		電灯設備図の作成手順を解説する。
第15回		電灯設備図を作成する－1。
第16回		電灯設備図を作成する－2。
第17回		電灯設備図を作成する－3。
第18回		幹線動力コンセント設備図の作成手順を解説する。
第19回		幹線動力コンセント設備図を作成する－1
第20回		幹線動力コンセント設備図を作成する－2
第21回	幹線動力コンセント設備図を作成する－3	
第22回	給排水衛生設備図作成	給排水衛生設備に必要な記号を解説。
第23回		給排水衛生設備図を作成する－1。
第24回		給排水衛生設備図を作成する－2。
第25回		給排水衛生設備図を作成する－3。
第26回		給排水衛生設備図を作成する－4。
第27回	空調設備・換気設備図の作成	空調設備に必要な記号、使用機器を解説。
第28回		換気量の算定方法解説。
第29回		空調換気ダクト配管図の作成－1。
第30回		空調換気ダクト配管図の作成－2。
第31回		空調換気ダクト配管図の作成－3。
第32回		空調換気ダクト配管図の作成－4。
第33回		空調換気ダクト配管図の作成－5。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD演習 I	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(132時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	山田 三郎(設計事務所を主宰する一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	汎用CADをメインとして、その他いくつかのソフトの基本的な使い方を学ぶ。建築実務におけるCADや3Dモデルといった、デジタルならではの表現を中心に学習する。そして、作成したデジタルデータを素材として、デジタルプレゼンテーションを完成させることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、図面を作成する過程で各種のコマンド操作やCAD図面の作図方法を学ぶ。また、小テストを実施して各自のスキルを確認できるようにする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものである。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 初回ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	2. インストール	CADのインストールとユーザー登録についての説明
第3回～ 第8回	3. CADの基本操作演習1	CADの特徴と基本的な設定、重要コマンドの概略を説明 各レイヤーや線種等の設定を踏まえた作図を習得する 図形の描画方法を学ぶ。直線、円、円弧、削除と取消を習得する
第9回～ 第18回	4. CADの基本操作演習2	図形の修正方法を学ぶ。選択方法、移動、複写や隅部の処理方法を習得する 画層(レイヤー)の管理と操作方法を学ぶ。画層の概念について解説し、管理方法 画層の使いこなし方とそれによる効率のよい図面の描き方を習得する 図形以外のオブジェクトとして、文字及び寸法線の入力方法を習得する モデル空間を学ぶ。基本的な効率のよい印刷方法を習得する。
第19回～ 第32回	5. CADで作成する 実施図面1	平面図講義 平面図作図演習①(住宅木造二階建て、または、共同住宅RC造3階建て) 平面図作図演習②(住宅木造二階建て、または、共同住宅RC造3階建て) 平面図作図演習③(住宅木造二階建て、または、共同住宅RC造3階建て)
第33回～ 第40回	6. CADの応用操作演習3	尺度、印刷スタイルやレイアウト空間といったCADの特性を把握し、正確に出力する方法を学ぶ。レイアウトの基本、複数尺度での表示、異尺度対応を習得する 効率よく作業するための方法を学ぶ。テンプレート、図面間でのコピー、ブロック、ハッチング、表の作成、図面情報の管理等を用いた図面作成方法を習得する
第41回～ 第46回	7. CADで作成する 実施図面2	立面図作図演習①(住宅木造二階建て、または、共同住宅RC造3階建て) 立面図作図演習②(住宅木造二階建て、または、共同住宅RC造3階建て) 断面図作図演習①(住宅木造二階建て、または、共同住宅RC造3階建て) 断面図作図演習②(住宅木造二階建て、または、共同住宅RC造3階建て)
第47回～ 第53回	8. CADデータを応用した 3Dモデルの作成	これまでに作成した二次元データを基にして、3Dのモデルを作成する 立体のモデルを作成 することで、より3次元としての建築空間を視覚的にも、感覚的にも把握できるようにする
第54回～ 第59回	9. 3Dモデルとグラフィック ソフトの連携	3Dモデルとグラフィックソフトを連携させ、よりリアルな建築のパースを作成する 写真加工演習① 写真加工演習②
第60回～ 第66回	10. デジタルデータの プレゼンテーション	プレゼンテーション講義 これまでに作成したCAD図面、3Dモデル、デジタルパースなどを素材に、一つのプレゼンテーションソフトにまとめ、実際に発表する

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	デジタルデザイン	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(132時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉田 錦次(デザイン事務所を主宰する一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	「デジタルデザイン I」では、近年、建築業界で急速に普及し、注目を浴びている最新設計ツールであるBIMを、その基礎から学ぶ。具体的には、BIMの概念の理解から始まり、BIMソフト「ArchiCAD」の基本操作、そして作成した三次元モデルから二次元の建築図面を作成する。最終的に複数のソフトを使い、デジタルプレゼンテーションまで行えることが、目標である。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする。オリジナルテキストなどを使い、教員が実際にパソコンを操作し、その様子をプロジェクターで学生に見せながら学ばせる。そのうえで、学生は自ら手を動かし、その操作や機能などを体で実感しながら学んでゆく。基本的なモデルを提示し、全員が同じペースで基本を学ぶが、その後徐々にそれぞれ自分のデザインをベースに作業を進め、最終的には、学生個々の習熟度に見合ったオリジナルの成果物とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものである。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～	1. BIMの基本的な概念	ArchiCADの概念・BIMで何ができるのか・BIMを使った仕事の流れなどについて ↓
第6回～	2. ArchiCADの基本操作① BIMのガイドライン	ArchiCADの基本とBIMガイドラインの理解 ↓
第11回～	3. ArchiCADの基本操作② BIMの環境設定	ArchiCADの基本と環境設定 ↓
第17回～	4. ArchiCADの基本操作③ モデルの作成	ArchiCADのモデリング ↓
第27回～	5. ArchiCADの基本操作④ 立面図の作成	ArchiCADによる立面図の作成 ArchiCADによる編集及び修正方法 ↓
第33回～	6. ArchiCADの基本操作⑤ 断面図の環境設定作成	ArchiCADによる断面図の作成 ArchiCADによる編集及び修正方法 ↓
第39回～	7. ArchiCADの基本操作⑥ 平面図の作成	ArchiCADによる平面図の作成 ArchiCADによる編集及び修正方法 ↓
第44回～	8. ArchiCADの基本操作⑦ パースの作成	ArchiCADによるパースの作成 レンダリングによる内観及び外観パースの作成方法 ↓
第55回	9. プレゼンテーション レイアウト	内観及び外観パースのPhotoshopによるレタッチ等の作成方法 ↓
第58回～		Illustratorによる校正及び編集など Illustratorによる規定用紙へのレイアウト及びアウトプット ↓
第62回～	10. 設計課題への応用	PowerPointでまとめる → プレゼンテーション 規定用紙へのレイアウト 設計課題への応用 ↓
第66回		設計課題への応用及びプレゼンテーション

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築測量	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	1単位(34時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	齊藤 亮介(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	建築の計画や設計、施工等などの段階においても必要となる測量技法について学習し、各種の測量手法の原理と、その活用方法についての基礎的な知識を具体的な実習を通して習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、基本事項等についてはスライドやDVDなどの教材を利用しテキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。実習は、職業訓練法人 全国建設産業教育訓練協会 富士教育訓練センターにおいて実施する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 測量の基礎知識	測量に関する基礎的事項について解説する。
第2回 ～第3回	2. 平板測量	平板測量の原理、方法、手順について解説する。
第4回 ～第5回	3. 水準測量	水準測量の原理、方法、手順について解説する。
第6回 ～第7回	4. セオドライト測量	セオドライト測量の原理、方法、手順について解説する。
第8回 ～第13回	5. 職業訓練法人 全国建設産業教育訓練協会 富士教育訓練センター での実習	平板測量①: 用具の準備、セットの仕方等 平板測量②: 器具の使い方について 平板測量③: 実測 平板測量④: データを基に面積計算 平板測量⑤: まとめ 水準測量①: 用具の準備、セットの仕方等 水準測量②: 器具の使い方について 水準測量③: 実測 水準測量④: データを基に高低差を計算 水準測量⑤: まとめ セオドライト測量①: 用具の準備、セットの仕方等 セオドライト測量②: 器具の使い方について セオドライト測量③: 実測 セオドライト測量④: 制度の確認を行う セオドライト測量⑤: まとめ
第14回	6. 測量レポートの作成	平板測量のレポートを作成
第15回		水準測量のレポートを作成
第16回		セオドライト測量のレポートを作成
第17回	7. 学習のまとめ	学習のまとめ

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築材料実験	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	1単位(34時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	齊藤 亮介(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	コンクリート供試体の作成・圧縮試験、鉄筋の引張試験を通して、鉄筋コンクリートの仕組みや材料の物理的機械的性質について学習する。また、実験方法やその意味合いを理解し、実験により理論と異なる結果が出た場合、実験のどこに問題があったかを検証する方法を学習する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、基本事項等についてはスライドやDVDなどの教材を利用しテキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	鉄筋コンクリートとは
第2回 ～第4回 第5回 ～第7回 第8回 ～第13回	2. 材料に関する基礎事項  3. 材料実験について  4. 職業訓練法人 全国建設産業教育訓練協会 富士教育訓練センター における実習	コンクリートの性質、鉄筋の性質について解説  DVD等を用いて、材料実験の目的及び流れ等を確認する。  コンクリート供試体の作成①: 材料の軽量について解説及び実習 コンクリート供試体の作成②: 材料の配合について解説及び実習 コンクリート供試体の作成③: スランブ試験について解説及び実習 コンクリート供試体の作成④: 供試体の作成 コンクリート供試体の作成⑤: 器具の清掃及び管理について解説及び実習 コンクリート供試体の作成⑥: キャッピング作業 コンクリート供試体の作成⑦: 脱型及び養生 コンクリート供試体の圧縮試験  鉄筋引張試験: SD345 D19 L=500 引張試験
第14回 ～第16回	5. 実験レポートの作成	実験データの整理 実験レポートの作成 実験レポートの作成
第17回	6. まとめ	材料実験のまとめと演習

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築作品研究	開講学科	建築設計デザイン科(建築 デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	1単位(34時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	田川 典幸(実務経験のある一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	海外の歴史や文化について学習し、歴史的建築物や現代建築物の状況を実際に現地へ訪問し調査研究を行う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	海外における歴史的建築物や現代建築物について、文献、スライド、DVD等の教材を利用し調査を行う。実際に現地を訪れ、実態調査を行い現地の環境に触れる。テキストや資料だけでは分かりにくい部分の理解深める。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 ～第4回	1. 基本調査	海外における対象地域の歴史や文化に関する調査を行う 歴史的建築物・現代建築物に関する情報を収集する。 物件情報の調査を行う。 建築年、設計者、様式、構造、特徴等建築概要調査を行う。
第5回 ～第14回	2. 現地での実態調査	現地調査①: 歴史及び文化に関する調査 現地調査②: 気候風土に関する調査 現地調査③: 都市の特徴等に関する調査 現地調査④: 対象建築物の立地環境調査 現地調査⑤: 外観、内観、空間構成等の調査 現地調査⑥: 特質情報の調査
第15回 ～第17回	3. 報告書の作成	文献調査及び現地調査のデータを基に、レポート形式にまとめる。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築課題研究 I	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(86時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	伊東 秀紀(実務経験を持つ一級建築施工管理技士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	普通の教科目だけでは習得できない展示会の見学や講演会への参加。そして、企業を招き最新の業界情報を知る特別授業を受講する。さらに、設計課題等の現地調査や役所調査を行い、より実務に近い情報を得ることに役立つ。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	展示会の開催時期、講演会の開催時期に応じて参加する。また、企業と連携し、定期的に特別授業を依頼し、業界の先端情報やソフトの実情に関する授業に参加する。さらに、平日でしかできない諸調査を行うことでより実務に即した方法で課題に取り組むことができる。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～	1. 校外授業	展示会の見学 歴史的建築物や有名な建築物の見学 建築家の講演会への参加 美術館等の見学 街並みの散策等の実施
	2. 特別授業への参加	企業に來校いただき業務内容や最先端事情についての特別授業の受講 企業で働くOBを招いて、業務内容や業界の実情等に関する特別授業の受講
	3. 先端ソフトに関する特別授業	プレゼンテーションソフトの販売会社等を招き、先端ソフトの機能や操作状況について特別授業の受講
	4. 設計課題等の調査	設計課題の敷地調査、役所調査、環境調査等を行う。
	5. 課題対応	設計課題等の作成作業等を行う。
第43回	6. 苦手科目の補強	試験対策や普通の弱点部分の補強を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築課題研究Ⅱ	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	3単位(90時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	山田 三郎(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	普通の教科目だけでは習得できない展示会の見学や講演会への参加。そして、企業を招き最新の業界情報を知る特別授業を受講する。さらに、設計課題等の現地調査や役所調査を行い、より実務に近い情報を得ることに役立つ。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	展示会の開催時期、講演会の開催時期に応じて参加する。また、企業と連携し、定期的に特別授業を依頼し、業界の先端情報やソフトの実情に関する授業に参加する。さらに、平日でしかできない諸調査を行うことでより実務に即した方法で課題に取り組むことができる。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～	1. 校外授業	展示会の見学 歴史的建築物や有名な建築物の見学 建築家の講演会への参加 美術館等の見学 街並みの散策等の実施
	2. 特別授業への参加	企業に來校いただき業務内容や最先端事情についての特別授業の受講 企業で働くOBを招いて、業務内容や業界の実情等に関する特別授業の受講
	3. 先端ソフトに関する特別授業	プレゼンテーションソフトの販売会社等を招き、先端ソフトの機能や操作状況について特別授業の受講
	4. 設計課題等の調査	設計課題の敷地調査、役所調査、環境調査等を行う。
	5. 課題対応	設計課題等の作成作業等を行う。
第45回	6. 苦手科目の補強	試験対策や普段の弱点部分の補強を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	卒業制作	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(62時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	水間 寿明(設計事務所を主宰する一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	「卒業制作」では、敷地の選定、企画の立案等を自分で設定し、敷地・構造・規模などを調査・選定する。法規、構造、施設用途、建物コンセプト等、現実に即したものとして仕上げることを目的とする。さまざまな実例の詳細な調査や各種情報交換をし、スケジュール管理まで含めた実務的な仕事の手順で「作品」の完成に導く。社会での擬似体験と考え、決められた期限内に満足のゆく作品を完成させる。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。作品は全て個人またはグループによる創作である。コンセプトを現実のカタチにまで造り上げることは、現在学んでいる多くの他の授業の統合である。これを理解し実感してもらうためには、期限内に作品を完成させることを最優先している。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものである。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第3回～ 第5回～ 第7回～	課題及び要項説明 敷地調査 要項作成 エスキス① エスキス② エスキス③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「卒業制作」の課題説明と要求図面などを解説</li> <li>・設定した敷地や周辺環境の調査を行う</li> <li>・プログラム等各種設定を作成</li> <li>・多様化する社会、変化する社会のなかで建築の在り方、あるべき姿とは何かを考え、これまでに学んだ知識や技術の集大成として表現できるよう指導</li> <li>・コンセプト・敷地・構造などは自由であるが、規模やテーマはやはり、卒業制作に相応しいものとして、綿密な打ち合わせを行う</li> </ul>
第14回	エスキス④	
第15回	中間発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エスキスやスタディ模型を使って各自のコンセプトや表現したい事を発表し、完成に向けて最後の微調整を指導</li> </ul>
第16回～ 第25回	図面・模型の作成① 図面・模型の作成② 図面・模型の作成③ 図面・模型の作成④ 図面・模型の作成⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決められた期限、様々な制約のなかで作品を完成させるためには、日常生活パターンや健康管理などを含め、あらゆる面において自己コントロールが必要</li> <li>・更にはさまざまな場面で孤独な決断を強いられ、完成に向けて何を優先させ、何を捨てるのかといったアドバイスも行なう</li> </ul>
第26回～ 第27回	プレゼンテーション① プレゼンテーション②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模型写真、パース表現、コンセプトのまとめ方及び全体レイアウトなどを指導</li> </ul>
第28回～ 第29回	クラス講評会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の人の考えや表現を見て、自らの計画にフィードバックする</li> <li>・プレゼンテーションや他の人の作品研究を通して、今後の制作へ向けたモチベーションや知識、技術の向上を目指す</li> </ul>
第30回～ 第31回	合同講評会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後の講評会で、プレゼンテーションや他の人の作品研究を通して、もう一度「建築」を学んだ学生として、「講評会」で発表する意義を考える</li> </ul>

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	ビジネス実務・表現・社会人教育	開講学科	建築設計デザイン科(建築デザインコース)	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	1年(通年)	講義区分	一般教養
教員紹介	江上 環 (相模女子大学キャリアカウンセラー勤務、実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	就職活動に必要な基礎知識やSPI対策及び履歴書の作成方法を学ぶ。基本的な挨拶やビジネスマナー等の習得目標とする。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. コミュニケーション	コミュニケーションの効果について解説
第2回		コミュニケーションの基本である挨拶の重要性について解説
第3回		コミュニケーションの基本である挨拶のスキルを身に付ける
第4回		コミュニケーションの基本である挨拶の実践
第5回	2. 社会に対する関心	社会に対する関心を持つ(毎日の時事への関心を習慣化する)
第6回	3. 働く目的と働き方	働く目的や働き方・社会人としての基本マナー等について解説
第7回	4. 履歴書について	履歴書の目的と作成方法 ①履歴書の書き方やポイントを解説
第8回		履歴書の目的と作成方法 ②実際の用紙に記入練習
第9回		履歴書の目的と作成方法 ③応募書類のポイント(郵送、手渡しの仕方など) 解説
第10回	5. 面接試験対策	面接試験対策①
第11回		面接試験対策②
第12回	6. SPI対策	SPI対策①SPI試験の特徴と対策について解説
第13回		SPI対策②演習問題による体験Ⅰ
第14回		SPI対策③演習問題による体験Ⅱ
第15回	5. 報連相について	報連相について①その重要性を解説(伝言メモの書き方)
第16回		報連相について②実習を通じてスキルを身に着ける(電話応対)
第17回		まとめ

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週